

母親の育児態度の推移

研究第5部 望月 武子
愛育幼稚園

I 研究目的

社会の状況のめまぐるしい変動は、家庭生活、育児環境にもさまざまな変化をもたらしている。

核家族の増加、父親の権威の失墜、一世帯あたりの子ども数の減少、住宅の高層化、生活空間の狭小化、進学競争の激化、公害、地域汚染、未来社会への不安など枚挙にいとまがない。

このような諸状況の変化の中で、母親の教育やしつけに対する考え方や態度にも変化があるであろうことは当然予測される。今の若い人は……とか、断絶とかいっ

て、私共は経験的にはこのような事を感じており、また、子捨て、子殺しなどの極端な事例を見聞している。

しかし、一般の母親についてはどのような変化があるのか、必ずしも正確に把握していない。そこで、母親のしつけに対する考え方について、果たして変化が認められるのか、変化しているとすれば、それはどのような傾向になっているのか、などについて明らかにしたいと考えた。

II 研究方法

1 方法及び対象

愛育幼稚園ではここ十数年来、入園希望者全員に対し日常生活のしつけ場面での母親の態度、意識について、同じ内容の調査を行ってきた。調査内容は別紙の通りであり、原案者や出典は明らかではない。

このような具体的な20場面について、母親がどのような態度をとるのが適切と思うかを、三種類の選択肢の中から選んでチェックするものである。

入園者の選考をする際に、母親に記入を求めているものだけに、日常、母親がどのように扱っているかという事実ではなく、どういう態度をとることが適切であると考えているか、という意識が表われているものと考えられる。十数年来のこの調査を整理して、母親の育児態度

第1表 調査数

(人)

10年前			現在		
年度	3歳	4歳	年度	3歳	4歳
36	114	43	46	105	77
37	128	72	47	81	55
38	58	36	48	143	79
計	300	151	計	329	211

の推移を調べようとしたものである。

実際には、この調査と家族調査の両方が揃っているものに限り、昭和46年から48年までを現在として、昭和36年から38年までを10年前としてまとめ、この両者を比較した。調査数は第1表の通りである。

2 手続き

この調査には元来、原案者の整理方法があるものと思われるが、今回は全く独自の考え方で整理した。

すなわち、しつけ場面の母親の態度を自律と統制という次元から考えて、具体的な場面の母親の態度が、子どもの行動、欲求を是認しこれにしたがったか、または、親の判断、社会的規範などにより子どもの行動を規定するかという観点から、子どもの側によった判断になった場合に高得点を与え、三種類の態度に2、1、0点の評価をした。

そして、個々の場面を子どもの行動からみて、子どもにはあまり必要でないものを欲しがらる、親のいいつけを守らなかつたり、いいつけに反対するなどの子どもがnegativeな行動をしている場面と、子どもがむずかしいことに直面した、大人の仕事をまねて自分からやり出したなどpositiveな行動場面をわけ、この両者の得点

を算出した。negativeな場面と考えたものは、質問項目の1, 2, 3, 5, 6, 7, 8, 11, 12, 14, 16, 18, であり、positiveな場面と考えたのは9, 10, 13, 15, 17, 19, 20, である。4はどちらへも含めなかった。

このように場面を分けて考えた理由は、negativeな場面での、子ども側によった判断は、放任、甘やかしになり、逆は、大人のわくを強制するしつけになると考え、また、positiveな場面で子どもの側によった判断は子ど

もの自発的行動を促進することになり、逆は、子どもの行動に対する大人の介入、干渉になると考え、同じ子ども側によった判断でも意味合いが異なるものと考えたからである。

一方、個々の場面については、回答の分布状態調べた。

そして、これらについて、10年前と現在との比較検討を試みた。

III 結果及び考察

調査対象者の家庭状況は第2表のようであり、10年前に比べ核家族が増加している以外は、特に明らかな差はみられないようである。

また、母親の年齢はやや高齢化し、学歴の点では高校卒が減少し、大学卒が増加しているのが10年前に比べ著明な変化といえることができる。(第3表)

母親の学歴からも推察することができるように、調査対象になった家庭の社会的なレベルはかなり高い方

であり、教育に対する意識は非常に強い家庭である。

まず、現在の母親が具体的なしつけ場面で、どのような態度をとるのが適切と考えているかを知るために、各場面における回答状況を第4表に示した。子どもの年齢によって母親の態度にも違いがあるのではないかと考えたが、対象が3歳児と4歳児であり、年齢差が1年であるためか、3, 7, 16, 19, の各場面以外はほとんど発達による態度の差は認められなかった。

回答から、現在の母親のしつけに対する考え方をみると、目的意識をもって、はっきりと親の意図を示してしつけに当たるとともに、子どもの自発的な行動を尊重し、欲求をも受け入れており、好ましい態度といえることができよう。これは前述したように、母親の教育程度が高く、子どものしつけや教育に対し熱意と理解のある階層であるということによるものであろう。

つぎに、しつけ場面での母親の態度が、子どもの行動や欲求にどうか、または子どもの行動を規定するかについて、子どもがnegativeな行動を示した場面とpositiveな行動を示しているが大人にとっては多少迷惑であり、手のかかる場面とにわけてその得点で表わし比較した。

negativeな行動場面の得点は3点から15点に、positiveな行動場面の得点は3点から14点にわたって分布していた。得点の分布状態は第1～4図の通りである。

第1, 2図にみられるように、子どもがnegativeな行動を示した場面での、母親の態度は、3歳児、4歳児ともに、10年前に比べ子どもの行動を規定する傾向が強くなっていることを示しており、いずれも得点の分布曲線がはっきりと左へ移動している。

これに対し、positiveな行動場面では、3歳児では分布のピークがやや右寄りに、4歳児ではやや左寄りに移っており、3歳児では子どもの欲求や行動にそった判断が多くなり、4歳児では逆に行動を抑える傾向になっているようで、3歳児、4歳児を通じて一致した傾向はみられない。

第2表 家庭状況 (%)

家庭状況		現在		10年前	
		3歳	4歳	3歳	4歳
家族構成	核家族	79.9	82.0	74.7	63.6
	祖父母同居	18.5	18.0	20.7	26.5
	その他同居	0.9		4.7	9.9
子ども出生順位	第一子	56.8	56.4	67.3	49.7
	第二子	6.4	9.0	4.7	7.9
	末子	36.8	34.6	28.0	42.4
子ども同胎数	1人	33.1	22.3	45.0	19.2
	2人	51.7	57.8	44.3	58.9
	3人	14.0	17.1	10.3	19.9
	4人以上	1.2	2.8	0.3	2.0
父の職業	俸給生活	73.9	64.9	82.0	60.9
	自給他	17.3	26.1	8.7	21.9
	その他	8.8	9.0	9.3	17.3

第3表 母親の年齢・学歴 (%)

母親		現在		10年前	
		3歳	4歳	3歳	4歳
年齢	20歳代	35.9	28.0	44.7	25.2
	30歳～34歳	43.2	39.8	45.7	60.9
	35歳～	21.0	32.2	9.7	13.2
学歴	学短大	24.9	36.5	52.0	57.6
	他	24.0	19.4	23.0	25.2
	校大学	48.3	38.4	21.0	11.3
	職業あり	2.7	5.7	4.0	5.9
職業あり		4.3	7.1	2.0	3.3

第4表 現在の母親の態度

〔左-N, 右-% (各欄共同じ)〕

1) 大人からみて、あまり必要でないと思われるものを子どもが欲しがった時

母親の態度	3歳		4歳	
	N	%	N	%
一応与える	68	20.7	48	22.7
与えない	186	56.5	113	53.6
「あとでね」と濁す	75	22.8	50	23.7

2) 親のいいつけを守らなかったり、いいつけに反対した時

母親の態度	3歳		4歳	
	N	%	N	%
子どもだから大目にする	4	1.2	1	0.5
おだやかにさとす	250	76.0	157	74.4
罰を与えて悪いことを悟らせる	75	22.8	51	24.2
無記入			2	0.9

3) 他家を訪問した時、子どもがはしゃぎすぎたり、お皿をこわした時

母親の態度	3歳		4歳	
	N	%	N	%
先方に失礼だからたしなめる	147	44.7	112	53.1
子どもは叱らないがあやまらせる	181	55.0	98	46.4
子どもだからきつくしてもしかたない	0		0	
無記入	1	0.3	1	0.5

4) 親に甘えた行動をした時

母親の態度	3歳		4歳	
	N	%	N	%
大きいのだからとやめさせる	33	10.0	26	12.3
甘えたいだけ甘えさせる	30	9.1	11	5.2
ある程度甘えさせる	266	80.9	174	82.5

5) 大人の大切にしているものを破損した時

母親の態度	3歳		4歳	
	N	%	N	%
仕方ないと思ってあきらめる	1	0.3	1	0.5
悪いことを理解させるために叱る	140	42.6	78	37.0
これから失敗しないように注意する	186	56.5	132	62.6
無記入	2	0.6		

6) 子どもが遊んでいる最中に食事の時間がきた時

母親の態度	3歳		4歳	
	N	%	N	%
少し待ってあげる	155	47.1	95	45.0
遊びただけ遊ばせる	0		0	
きまりをつけるためにやめさせる	173	52.6	115	54.5
無記入			1	0.5

7) こんだ電車の中で子どもが好きな場所にいきたがって他人に迷惑をかけた時

母親の態度	3歳		4歳	
	N	%	N	%
子どもだからしかたないと思う	2	0.6	0	
皆に迷惑することを納得させる	271	82.4	194	91.9
迷惑をかけないようにひきとめておく	56	17.0	17	8.1

8) 子どもが玩具をかたづけなかった時

母親の態度	3歳		4歳	
	N	%	N	%
何度も促し、かたづけることをきまりとしている	22	6.7	27	12.8
いい子だからと、片づけることに誇をもたせる	304	92.4	184	87.2
子どもだから、しかたがないと思う	3	0.9	0	

9) 子どもがむずかしいことに直面した時

母親の態度	3歳		4歳	
	N	%	N	%
子ども自身に考えさせる	15	4.6	8	3.8
ヒントを与える	314	95.4	203	96.2
かんしゃくを起すと困るから大人がする	0			

10) まだ上手にできないのに、大人のする仕事をまねて自分から進んでやりだした時

母親の態度	3歳		4歳	
	N	%	N	%
危いから「大きくなったら」といって止めさす	39	11.9	22	10.4
ほめてあげる	228	69.3	149	70.6
子どもののするままにさせておく	61	18.5	40	19.0
無記入	1	0.3		

望月他：母親の育児態度の推移

11) 子どもの大きな声、音などが家人の妨げとなる時

母親の態度	3歳		4歳	
止めさせる	210	63.8	117	55.5
ある程度許す	118	35.9	91	43.1
子どもがしたいようにさせる	1	0.3	2	0.9
無記入			1	0.5

12) おかずが少ないとか、まずいとか不満をいった時

母親の態度	3歳		4歳	
不満をいう人にはあげないという	32	9.7	28	13.3
子どもの気の向くままにする	13	4.0	1	0.5
たしなめてそのまま食べさせる	283	86.0	181	85.8
無記入	1	0.3	1	0.5

13) 子どもが母親のお手伝いをしようとしてコップやお皿をこわした時

母親の態度	3歳		4歳	
子どもも危いし、親も困るからやめさせる	99	30.1	60	28.4
子どもがしたいようにさせる	7	2.1	4	1.9
叱らずにかたずけて終りまで手伝わせる	223	67.8	146	69.2
無記入			1	0.5

14) 母親はあまり連れて行きたくないのに、ついて行きたがった時

母親の態度	3歳		4歳	
しかたがないから連れていく	4	1.2	7	3.3
時によって連れていく	240	72.9	144	68.2
連れていかない	84	25.5	60	28.4
無記入	1	0.3		

15) 母親が仕事に追われて忙しい時に子どもが描いた絵などみせにきた時

母親の態度	3歳		4歳	
忙しいからみてあげられない	1	0.3	0	
あとでみてあげるといふ	53	16.1	36	17.1
じょうずにできたといつてみてあげる	275	83.5	175	82.9

16) 来客と談話中に大人の気持ちを子どもにむけるための行動をしたり客に対して失礼な行動をした時

母親の態度	3歳		4歳	
子どもだから仕方がないので、そのまま	2	0.6	2	0.9
しばらく子どもの相手になる	200	60.8	104	49.3
叱って他の部屋へいかせる	127	38.6	105	49.8

17) 子どもが絵をかきながら「ここは何色」と尋ねた時

母親の態度	3歳		4歳	
いい加減に返事をする	1	0.3	0	
色を教える	58	17.6	43	20.4
自分の好きな色をぬれという	270	82.1	168	79.6

18) 子どもがけんかをした時

母親の態度	3歳		4歳	
怪いけんかなら大目にみる	269	90.0	193	91.5
子どもだからしかたないと思う	16	4.9	11	5.2
決してけんかをしてはいけないという	17	5.2	7	3.3

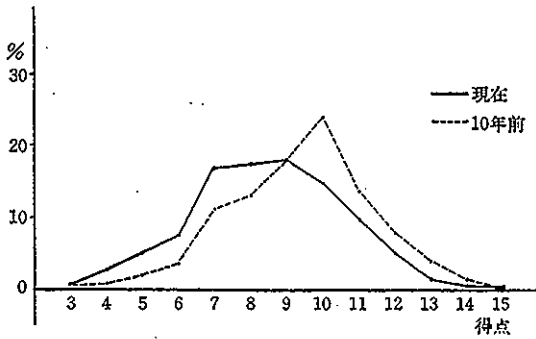
19) 子どもが掃除、皿洗いなどを手伝おうとして、時間がかかって容易にかたずかない時

母親の態度	3歳		4歳	
賞めながら時間がかかってもさせる	145	44.1	105	49.8
いくらかさせるが、途中から母親がする	38	11.6	33	15.6
むずかしかったら中断、やりたがったらさせる	146	44.4	71	33.6

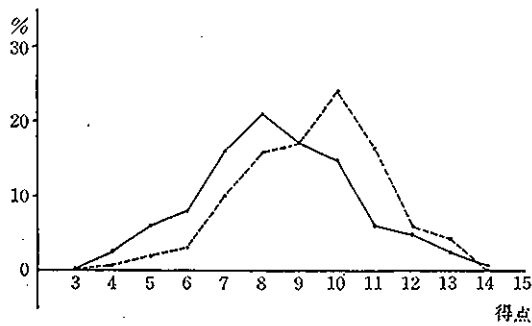
20) お正月に家族皆であそぶ時

母親の態度	3歳		4歳	
子どもを好きなように遊ばせておく	47	14.3	28	13.3
大人が適当と思ったもので一緒に遊ぶ	75	22.8	37	17.5
したい遊びを子どもに決めさせ皆でする	207	62.9	146	69.2

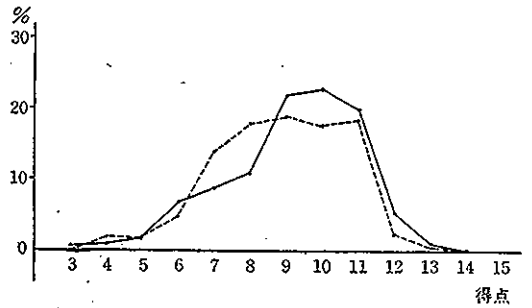
第1図 3歳児 negative場面の得点の分布



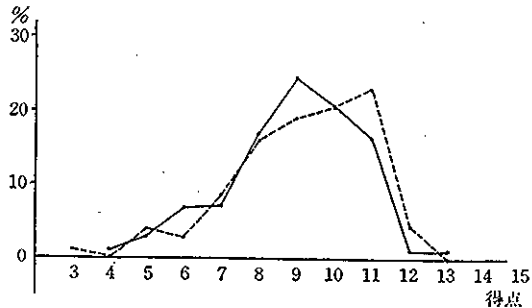
第2図 4歳児 negative 場面の得点の分布



第3図 3歳児 positive 場面の得点の分布



第4図 4歳児 positive 場面の得点の分布



第5表 得点の平均値の比較

場面	年齢	現在	10年前
negative	3歳	8.50※	9.37
	4歳	8.40※	9.36
positive	3歳	9.07	8.89
	4歳	8.97	9.18

negativeな行動場面、positiveな行動場面の得点を平均値によって比較したのが第5表である。

negativeな行動場面での態度は、3歳児、4歳児とも10年前に比べ得点の平均値が下っていて、子どもの行動を規定する傾向になっていることを示しており有意差が認められる。しかし、positiveな行動場面での得点には変化が認められない。

つぎに、個々の場面における母親の態度をみると、3歳児、4歳児を通して、10年前に比べ変化のみられるのは、第6表に示した場面であり、いずれも有意差が認められる。

これらの場面を通してみると、10年前に比べ現在の母親の態度には、「罰を与えて悪いことを悟らせる」「先方に失礼だからたしなめる」「悪いことを理解させるために叱る」「やめさせる」「叱って他の部屋へいかせる」のように、かなり直接的に子どもの行動を規定する傾向への移行がみられている。

これに対し、「おだやかにさすと」「これから失敗ないように注意する」「ある程度許す」「しばらく子どもの相手をする」などの子どもの欲求をうけ入れながらゆったり接していく態度が少なくなっている。

しかし、14「母親はあまりつれて行きたくないのに、ついていきたがった時」のように「連れていかない」が減少し、「時には連れていく」が増加している。これは、前述の傾向とは逆になっているが、これには核家族化などの影響が表われているのではないかと推定される。

また、子どもが絵を描きながら「ここは何色と尋ねた時」のように、「自分の好きな色にぬりなさいという」が増加しているのは、子どもの描画に対する知識や理解が深まっているためであろうか。

この他、3歳児では変化がみられるが、4歳児では変化のないもの、反対に4歳児では変化がみられるが、3歳児では変化のないものを第7表に示した。個々の場面で若干の違いはあるものの、前述したように、親の意図などで子どもの行動や欲求を規定し、子どもとのゆったりした接触に乏しいニュアンスはここでも感じられる。しかし、一方で、「子どもが甘えた行動をした時」の回答に「大きいのだからとやめさせる」が減少し、「ある

望月他：母親の育児態度の推移

第6表 個々の場面における親の態度の比較(3歳・4歳とも変化の見られるもの)(%)

2) 親のいいつけを守らなかつたり、いいつけに反対した時

母親の態度	現在		10年前	
	3歳	4歳	3歳	4歳
子どもだから大目にする	1.2	0.5	1.0	0.7
おだやかにさとす	76.0	74.4	85.7	92.7
罰を与えて悪いとことを悟らせる	22.8	24.2	13.0	6.6
無記入		0.9	0.3	

3) 他家を訪問した時、子どもがはしゃぎすぎたり、お風呂をこわした時

母親の態度	現在		10年前	
	3歳	4歳	3歳	4歳
先方に失礼だからたしなめる	44.7	53.1	30.3	40.4
子どもは叱らないが謝らせる	55.0	46.4	69.0	59.6
子どもだからきつくしてもしかたない	0	0	0.3	0
無記入	0.3	0.5	0.3	

5) 大人の大切にしているものを破損した時

母親の態度	現在		10年前	
	3歳	4歳	3歳	4歳
仕方ないと思ってあきらめる	0.3	0.5	0.7	0
悪いことを理解させるため叱る	42.6	37.0	19.7	20.5
これから失敗しないように注意する	56.5	62.6	79.7	70.5
無記入	0.6			

11) 子どもが大きな声、音などで家人の妨げとなる時

母親の態度	現在		10年前	
	3歳	4歳	3歳	4歳
やめさせる	63.8	55.5	43.0	46.4
ある程度許す	35.9	43.1	55.7	52.3
子どもがしたいようにさせておく	0.3	0.9	1.0	0.7
無記入		0.5	0.3	0.7

14) 母親はあまり連れていきたくないのに、ついてきたがった時

母親の態度	現在		10年前	
	3歳	4歳	3歳	4歳
仕方がないから連れていく	1.2	3.3	1.3	0.7
時によって連れていく	72.9	68.2	60.0	55.6
連れていかない	25.5	28.4	38.0	43.7
無記入	0.3		0.7	

16) 来客と談話中に、大人の気持ちを子どもに向けたための行動をしたり客に対して失礼な行動をした時

母親の態度	現在		10年前	
	3歳	4歳	3歳	4歳
子どもだから仕方がないのでそのまま	0.6	0.9	0.7	0
しばらく子どもの相手になる	60.8	49.3	80.7	76.2
叱って他の部屋へいさせる	38.6	49.8	18.0	23.8
無記入			0.7	

17) 子どもが絵を描きながら「ここは何色」とたずねた時

母親の態度	現在		10年前	
	3歳	4歳	3歳	4歳
いい加減に返事をする	0.3	0	0.3	1.3
色を教えてあげる	17.6	20.4	31.7	33.8
あなたの好きな色をぬれという	82.1	79.6	66.7	64.9
無記入			1.3	

19) 子どもが掃除、皿洗いなどお手伝いをしようとして時間がかかって容易に片づかない時

母親の態度	現在		10年前	
	3歳	4歳	3歳	4歳
賞めながら時間がかかってもさせておく	44.1	49.8	55.3	48.3
いくらかさせるが途中から母がする	11.6	15.6	9.3	7.9
むずかしかったら中断、やりたがったらさせる	44.4	33.6	34.7	43.7
無記入			0.7	

第7表 個々の場面における親の態度の比較 (3歳・4歳いづれか変化のあるもの)

1) 大人からみでもあまり必要でないと思われるものを子どもが欲しがった時 (3歳児) (%)

母親の態度	現在	10年前
一応与える	20.7	29.0
与えない	56.5	49.3
「あとでね」とにごしておく	22.8	20.3
無記入		1.3

13) 子どもが母親の手伝いをしようとして、コップやお皿をこわした時 (4歳児) (%)

母親の態度	現在	10年前
子どもも危いし親も困るからやめさせる	28.4	19.2
子どもがしたいようにさせておく	1.9	1.3
叱らずに片づけさせ終りまで手伝わせる	69.2	79.5
無記入	0.5	

4) 親に甘えた行動をした時 (3歳児) (%)

母親の態度	現在	10年前
大きいのだからとやめさせる	10.0	19.7
甘えただけ甘えさせる	9.1	7.0
ある程度甘えさせる	80.9	73.3
無記入		

15) 仕事に追われ忙しい時に子どもが描いた絵をみせに来た時 (4歳児) (%)

母親の態度	現在	10年前
忙しいからみてあげられない	0	0
あとでみてあげるといふ	17.1	7.9
「上手にできたね」とみてあげる	82.9	92.4
無記入		0.7

程度甘えさせる」に増加がみられている。

以上、全般を通してうかがえる母親の育児態度は、母親がはっきりした意図をもってしつけに当たっていると考えられる反面、大人の意図によって子どもの行動に介入したり抑えたりすることが増加してきているのではないかとこのことである。全体的には、子どもの欲求や行動を承認して、自発的な行動を奨励しながら、社会化のための働きかけをするという非常に好ましい態度が大勢を占めているものの、10年前との比較という観点からみると、子どもの欲求をうけ入れたり、余裕をもってゆった

り接したりすることが少なくなって、せっかちに、直接的な方法でしつける傾向がみられるように思う。

この調査からは、このような態度の変化が、どのようなことを原因として表われているのか、因果関係を探ることはできず、単に推移を示すにすぎない。また、この変化が育児にあたって良い影響を与えるものか、悪い影響を与えるものかは、育てられた子どもの状態と関係づけてみなければならず、これについては資料が整わないため検討することができない。

IV 要 約

現在の母親のしつけに対する考え方を示す一資料として、10年前の同一内容の調査と比較検討した。

特に、子どもが negative な行動を示す場面で、母親の態度に変化がみられ、子どもの行動を抑え、規定しようとする傾向が認められた。これは、親がはっきりした

意図をもってしつけに当たっているためと考えるとよいだろう。しかし、反面で、親の態度にゆとりがなく、子どもの気持ち、欲求を受け容れることができないという状況も考えなくてはならないであろう。